

昭和41年卒

初代監督 野本勝

専修大学体育会バドミントン部、創部50周年、まことにおめでとうございます。当時（昭和37年）私が本校に入学した当時、バドミントン同好会として、スタートを切って間もない頃と思います。関東学生連盟の春秋のリーグ戦にも参加し、徐々に部活動の礎を整え一步一步進んだ時と思います。創部に当たっては新美・小木曾両先輩を中心に創設されたと聞いておりますが、創部当初に関われた人達の御苦勞は大変な事だったとお察し申し上げます。

私がバドミントンに最初に出会ったのは高校入学の時が始まりで毎日練習するうちにバドミントン大好き人間に変わっていたのを覚えています。大学時代は日々の練習、春と夏の合宿が、一つの目標に向かっている仲間と一緒にいる時間が一番楽しかったと、今でも思っております。卒業後数年は東京にいましたので後輩の活動も見聞き出来たのですが、愛媛に帰ってからは時々成瀬前監督から部の状況等を電話で知るくらいでした。自分はいえ高校の後輩達と年に何回か試合に参加するうちに、松山市の協会設立に参加、そして愛媛県協会役員として今なおバドミントンに関わっています。

専修大学体育会バドミントン部に入部された学生諸君は、よき仲間よき友情を育み、又卒業後は実業団チームあるいは市民スポーツと末長くバドミントンに関わって頂きたいと思っております。最後に本校からオリンピック選手の誕生を期待しております。

[戻る](#)

## 創立50周年を顧みて

昭和44年卒

OB会副会長竹重三八男

昭和40年に入部しその夏の合宿に参加しました。当時を思い出しますと楽しくもあり苦しくもありの貴重な体験でした。苦しい事は先輩の衣類を洗濯する事、今までやった事などなく、手は昼間の練習で使い物にならず、足で踏みつけて洗った記憶があります。夜になると近くの河原に行き、校歌を声を限りに歌わされました。おかげで人前で話すとか、歌う事は平気になったような気がします。朝6時に起きて10キロマラソン9時から5時までの屋根の低い体育館でのトレーニング、トイレで足腰が踏ん張れなくなった事が昨日のことに思い出されます。3年になりマネージャーとして課外体育科との折衝、区立体育館コート借り入れ交渉、専修大学本部への金銭面援助を申し込み10万円お借りしました、今の価値で100万円位でしょうか。

お蔭で同好会の悲哀を感じましたが、同時に悩みは自分で抱え込んで駄目だ、勇気を持って人に話す事、熱意があれば人は動く事を学びました。人生は『オ』か、『ニ』かで大きく変わります。『挑む』『逃げる』です。若い現役学生諸君には、夢を持ってそれを叶えるために揺ぎ無い信念を貫く生き方が出来るようになると思います。ぜひ逃げずに挑んで下さい。

未来が待っています。

[戻る](#)

専修大学バドミントン部創部 50 年おめでとうございます。私が入学した、昭和 44 年は学園闘争が一番激しいとして東京大学の入学試験が行われなかった年として知られています。バドミントン部もその頃は、専修大学バドミントン部同好会として活動していました。練習は 7 時 30 分から授業の始まるまでと昼休み、世田谷区体育館を借りていました。リーグは 4 部で、リーグ戦は 3 複 6 単、エースは 1 日単複で 6 試合勝たなくてはなりません。今のように、ラリーポイントでは無いのでスタミナも必要でした。大学でバドミントンをやるつもりは無かったのですが、身体検査の時に捕まってしまう入会してしまいました。最初に先輩に言われたことは、「お前らは運が良いな。去年までは鬼がいたぞ！」でも、その人がいたからこそ 50 周年を迎える事が出来たのではないのでしょうか？

チームとしては 3 年の秋リーグは、部の歴史の中でも最弱ではないかと思っております。4 部で本当に勝てるのは 2 名のみあとはオーダー次第。最下位、5 部降格になってしまいました。(1 年後に 4 部復帰)、私個人は、3 年の春から同好会ながら関東学生連盟の役員になり、4 年時には全日本学生連盟、関東学生連盟の副委員長を兼任し日本バドミントン協会の広報委員会委員として「第 1 回国際バドミントン大会」「第 6 回ユーバー杯東京大会」「第 1 回日中バドミントン大会」の運営にも参加できるという幸運に恵まれました。そして、未だに愛知県で役員に名を連ねています。高校、大学とも同好会でしたが、高校は 2 年後輩が地元開催という幸運にも恵まれインターハイ初出場以後東海大会優勝等強豪校の仲間入りすることが出来ました。(今は弱体化し、地区大会 3 位を死守) 同好会でインターハイ出場は珍しいと思います。大学でも 4 年時に 1 年生で入会した、小泉君が中心となり 2 部まで昇格し、その後 1 部まで昇格してくれ先輩としてはうれしい限りです。先輩との思い出は 2 年先輩の卒業旅行に同行、車 2 台で九州 1 周のドライブ、途中、先輩 4 人は、風邪と疲れ(?) からかダウン、なぜか私だけ仲間はずれ、やはり同期は仲が良い！OB の先輩では、2 年で会計になってから年に数回試合や飲み会のハガキを出し、4 年の追い出しコンパの時には、元 OB 会会長の森田さんや寺坂さん、沢沢さんや数名の OB の方にも出席していただき感激したことを覚えています。

最後になりましたが、同期について最初は 7 名でしたが、2 名が抜け兼村キャプテン以下、福田、大野、菅原、池田の 5 名。兼村・福田は高校からの経験者で大野・菅原は初心者、私は少し打てる程度個性的で面白い仲間です。皆、ばらばらの様で苦しいチーム状況でも、誰も退会せず 5 人でやれたのは誇りです。

私にとって、専修大学の 4 年間はバドミントンを通じて、大学の勉強よりも多くのことを学び、国際社会及び、日本を考え、人との交流の輪が広がり、それらが自分の財産となり今があると思っています。

まだまだ、書きたいことはたくさんあり書いたことも見出し的な事ではなく内容があまりありませんが、後輩の人には少しは当時の事を分かって貰えたのではないのでしょうか？最初に同好会を、創設された先輩は大変に苦勞されたことだと思いますし、50 周年を折に心から感謝いたします。また、学生時代に指導をして頂いた先輩、同期の仲間、迷惑をかけたであろう後輩諸君にお礼を申し上げます。

今回、部史に書く機会を与えて頂き本当にありがとうございました。編集委員会の皆さまのご努力により素晴らしい部史になります様願っております。

## 大学時代の思い出

商学部昭和58年卒

東野利幸

インターハイの結果に未練が残り、バドミントンを続けたくて親にわがままを言って大学進学を決めました。昭和54年度入学ですから、もう30年近く前のことで記憶も・・・？ですが。入学当初、男子は2部2位、女子は1部6位だったと思います。天狗(自信満々)で入学しましたが、大学のスピードについていけず、フットワークからやり直しました。

試合での思い出は何と言っても、1年秋のリーグ戦初出場の試合です。MC(メンバーチェンジ)でしたが、試合に出られる喜びと緊張は忘れられません。試合は青山学院主将に15-8,15-8くらいで負けたのですが、何故だかプレーに自信が持てた試合でした。石川県高松町・鹿島・山中湖の合宿や福岡インカレ、練習中の交通事故事件。いろいろな出来事と良き先輩・仲間に恵まれ楽しく続けられました。3年秋には主将になり、何が何でも1部昇格と意気込んでいましたが、結局入れ替え戦に負け2部のままでした。“あっ”と言う間の4年間でしたが、現在も地元のバドミントン協会の世話をしているのは、大学時代がありバドミントンが大好きだからだと思います。

なかなか会う機会はありませんが、当時お世話になった先輩方・後輩達にもこの場を借りて厚くお礼申し上げたいと思います。

「ありがとうございました^^」

[戻る](#)

昭和58年卒

山田（旧佐野）文香

私が入学したのは、丁度バドミントン部が同好会から体育会バドミントン部に部昇格し、関東学生リーグも改正して各部6校ずつだったものが3部以降は校数が増えてAリーグ・Bリーグ・・・Hリーグになり部は1部～6部になった頃でした。

入学当初、女子は3部か4部に上がったばかり、男子は2部でした。今もそうですが、3部までは、会場が各大学の体育館で実施であった為、いろいろな大学で試合をしてメイン会場である板橋区体育館に男子の応援に行ったものです。おかげさまで2部までは一気に勝ち上がり、次のリーグからは女子も板橋区体育館での試合となりました。午前中が女子の1・2部の試合、午後が男子の1・2部の試合だったので、午前中に試合が終わるとそのまま残って男子の試合を応援しました。たいがい午前の試合でいろいろ後悔・反省をしながら、男子の試合を観てはイメージトレーニングをしていたので、午前と午後と逆だったら・・・とよく思ったものです。

大学も体育館がまだ一つで、運動が盛んな専修大学では、バドミントン部が体育館を使える時間は、平日月～金の授業が始まる9時までと時々昼休みの12時～1時の間だけでした。練習は平日のみ、授業が始まる9時まで体育館でと昼休みはランニング（大学からゴルフ場を周り（長いコースの時は向ヶ丘遊園地も含み）民家園ゴール、木曜日だけは世田谷の砧緑地公園の体育館を借りて夕方～夜まで練習を実施していました。練習前の砧緑地を走るランニングは今考えると爽やかで気持ちよい経験だったと思います（当時はつらかったのですが）オフコースを聴けば関東学生リーグを、あの大会の雰囲気思い出し、なんとも切ない優しい懐かしい気持ちになるのです（関東学生は何故いつも体育館にオフコースがかかっていたのでしょうか？）20数年ぶりに大学を訪れた時は体育館も外観は変わらず、バドミントン部が集っていた生田会館も昔のままに残り（中は入っていないので分かりませんが）あの急な専大坂と校舎のたたずまいは、大学時代にタイムスリップさせてくれました。30年経って振り返ってみて驚く事は、あの頃と基本的な考え方・行動がほとんど変わっていない・・・という事です。

シニアやジュニアの試合に行くと当時の懐かしい顔を見かけます。「皆バドミントンを愛し続けているんだなあ・・・」と私達より先に卒業された先輩方も、私達の後に学んだ後輩達も、そして今まさに専修大学で学生生活を送っている学生も私達と同じく充実した生活を送っているのだろうな、と思うのです。かけがえのない思い出と経験をこれからも作っていつてくれる事を信じて願います。

戻る

# 50年の伝統を受け継いだ我らが部に寄せて

## —感謝—

文学部人文学科 平成元年卒

稲村 (旧姓西塚) 仁美

専修大学体育会バドミントン部創部 50 周年記念おめでとうございます。私が在学していた頃は男子部、女子部共に 1 部で奮起しておりました。春秋に開催される大学リーグ戦は独特なものがあり、高校生では味わえない緊張感があったことを記憶しています。東日本選手権や全日本学生選手権大会など各地を回りたくさんの選手と対戦できたことは今でも私共に色々な励みになっています。現在では国際大会等でご活躍される選手が育成されたことなどとても誇らしく、頑張っている後輩達の試合結果を楽しみにしています。

記念誌ということで、何か当時の変化としますと入学当時は昭和の世代でもありましたが、卒業する年には平成に変わった年でもありました。入部当初からバドミントン部OB会に支えていただき、学生寮で生活をしていた私は大会開催案内、大会結果などのハガキを同期の仲間と共に作成していたことも思い出します。今、その案内をいただく度に当時の思い出すことが出来ています。当時は 1 年の仕事とっていたことも年を経ることに重要な役割を担っていたことを合わせて思います。受け継がれて行く事があるということ、60 周年、70 周年と更に部員の皆様方にはご活躍いただき、OBの皆様方には当時支えていただいたOB会を思い出し、報恩奉仕の精神を受け継いでいかななくてはならないと思います。専修大学体育会バドミントン部の更なるご発展、ご活躍とOBの皆様のご多幸を祈念いたしまして、50 周年のお祝いとさせていただきます。

最後に、平成 23 年 3 月 11 日金曜日午後 2 時 46 分東日本大震災に被災されました皆様に心からのお見舞いと、亡くなられた皆様に哀悼の意を表します。記念誌ではありますが、この年に起きた大震災を忘れてはいけないと思い一日も早い被災地の復興を一人の人間として何か力を尽くしたいと思います。

平成 23 年 3 月 20 日

戻る

平成6年卒

高岩住恵

35年間バドミントン一筋で頑張っておられた成瀬元監督に誘っていただいたこともあり、自分の希望する我が大学、専修大学に入学しました。

親元を離れどうなる事かと思いましたが、大学の体育寮に入り、自炊をしながら勉強、部活、人生勉強、色々と経験し大学生活を過ごしてきました。自分なりに頑張ってお成績を残す事が出来ました。大学を卒業し、実業団に入り、それまでに培ったことを生かしてきました。引退後、成瀬元監督の熱いラブコールをいただき、数年間、成瀬元監督の代理をさせていただき、後輩達にたずさわりました。団体優勝は未だありません。与えられた時間は皆、平等です。その時を無駄にせず、悔いの残らぬよう、大切に過ごして欲しいです。現役学生の皆様の奮起を期待しています。頑張ってください。

この大学に入学し、4年間、大学生活、バドミントンを出来た事、嬉しく誇りに思います。

[戻る](#)



平成23年卒

田村千秋

2007年、私は不安と期待を抱きながら専修大学に入学しました。学校の授業も、寮生活にも最初は何も分かりませんでした。同年代の仲間や先輩方に協力して頂きすぐに慣れる事が出来ました。部活動では、先輩方についていくことが精一杯でただひたすらに毎日練習に取り組んできました。

試合では、1年生なので何も恐れることなく誰に対しても向かっていくことが出来思い切り試合を行う事が出来ました。2年生になり、心にも少し余裕が出来先輩もすこしずつ指導していく立場になりました。試合では、世界学生バドミントン選手権に出場することができとてもいい経験となりました。しかし、全日本学生バドミントン選手権に出場することはできても余計なプレッシャーや気持の弱さから結果を残すことはできませんでした。3年生になり、上級生になると先輩たちに指導するだけでなく自分の行動を見せ手本とならなければならなくなりました。それだけ、責任感も強くなりました。少しでも4年生を助けられるようにと頑張ってきました。

全日本学生バドミントン選手権大会では、団体戦で2年連続優勝できなかった事は、とても悔しかったです。個人戦では、2位になることができ、嬉しかったです。4年生と一緒に、力になろうと思ってきた、結果だと思えます。4年生になり、最上級生となってからは、自分たちが部を引っ張っていかなければならないという、責任感がより強くなりました。その反面、私が勝たなければならないという、プレッシャーも大きくなり、リーグ戦では、思うように勝ちつなげることができませんでした。それではダメだと挑んだ全日本学生バドミントン選手権大会では、ベスト8という結果しか残すことが出来ずにとってもやさしかったです。

この大学生の4年間は、長い様でとても短く、あっという間に過ぎて行ってしまいました。達成感もありますが、少し後悔もあります。今の後輩達には、そのような後悔を残すことなく、私たちの後悔の分も頑張りたいと思います。また、自分自身も、後輩達に負けずに、社会人になっても頑張りたいと思います。

戻る